

「未来カフェ羽生」を開催しました



平成28年11月26日(土)及び12月3日(土)の2日間にかけて開催いたしました「未来カフェ羽生」では、参加された皆様から非常にたくさんの貴重なご意見をいただきました。「未来カフェ羽生」は、市民と行政の協働の場であり、皆様からいただいたご意見は、新たな羽生市総合振興計画に反映させていきたいと考えております。

1. 開催目的

本市では、さまざまな場面で、「市民が主役のまちづくり」を基本とした行政経営を実施し、市民の参画を進めています。「市民が主役のまちづくり」を進めるため、「市民参加、市民参画、市民協働」及び「住みたい、住み続けたいまち」を、まちづくりの基本理念としています。

本市では、市の最上位計画である「第5次羽生市総合振興計画」に基づき、総合的かつ計画的なまちづくりを進めておりますが、現計画が平成29年度末に満了を迎えることから、新たな総合振興計画の策定に着手したところです。

新たな総合振興計画を策定するにあたり、市民の皆さまがまちづくりについて、日頃から感じている提案等について、広く意見を聴取し、施策に反映していくため、ワールドカフェ形式*による討論会「未来カフェ羽生」を開催しました。

※「ワールドカフェ」とは、“カフェ”にいるようなリラックスした雰囲気の中、参加者が少人数に分かれたテーブルで自由に対話を行い、他のテーブルとメンバーを入れ替えながら話し合いを発展させていくことで、相互理解を深め、知識の共有ができる話し合いの手法です。

2. 開催概要

【第1回 未来カフェ羽生】

日 時 : 平成28年11月26日(土) 午後1時30分～午後4時30分

場 所 : ワークヒルズ羽生 大会議室

テーマ① : 「羽生市の良いところ、気になっているところ」

テーマ② : 「こういう市になってほしい」

【第2回 未来カフェ羽生】

日 時 : 平成28年12月3日(土) 午後1時30分～午後4時20分

場 所 : ワークヒルズ羽生 大会議室

テーマ③ : 「第5次羽生市総合振興計画の7つの政策」



3. 参加者数

一般公募 4 名 ・ 団体推薦 27 名 合計 31 名

4. 実施内容

【第 1 回 未来カフェ羽生】

(1) 実施方法

参加者を 6 グループに編成し、それぞれのグループにおいて、羽生市の「良いところ」「良くなったところ」「誇れるところ」及び「気になっているところ」「問題・課題」などを付箋に記入し、模造紙に貼りながら意見を出し合いました。

討論終了後、各グループの代表者による発表を行いました。

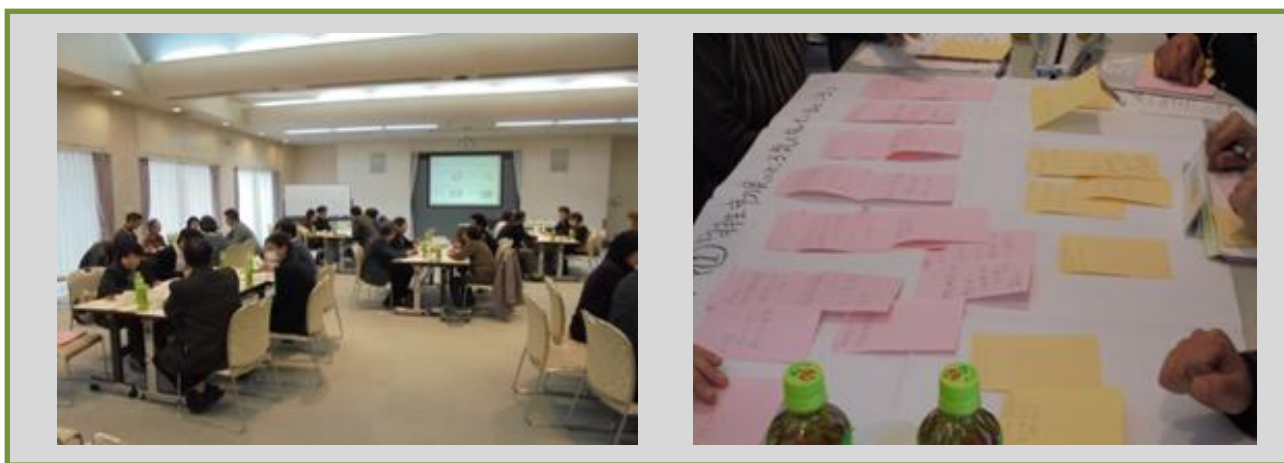
(2) 意見概要

テーマ①:「羽生市の良いところ、気になっているところ」については、市民の性別、年齢、居住期間、居住地区、置かれている環境等によって感じ方が様々であり、市民のニーズが多様化・高度化していることも、受け止め方に大きな影響を与えているものと考えられます。したがって、一つの事象に対して両側面の意見が多く見られます。

また、多様化する市民ニーズや激しく変化する社会・経済動向の中、行政が限られた予算の中で公平で幅広く市民サービス提供していることを踏まえつつ、テーマ②:「こういう市になってほしい」について出された意見では、市の活性化や、暮らしの安心、支援の充実したまちなどの意見が多く見られました。

意見やアイデアの中で多かったキーワードは、以下のとおりです。

<開催の様子>



テーマ①：「羽生市の良いところ、気になっているところ」

《良いところ》

- ・羽生市は災害が少なく安心して暮らせるまちである
- ・自然環境に恵まれた、緑豊かな地域である
- ・地域のコミュニティがあり、人と人のつながりが強く、昔からの伝統もある
- ・商業施設が充実していて、買い物に便利なまちである
- ・東北自動車道羽生インターチェンジがあり、交通の利便性も高いまちである
- ・子育て教育環境の良いまちである
- ・高齢者の施設が多いまちである
- ・消防が単独運営しているまちである

《気になっているところ》

- ・市街地が空洞化し、商店が減少したことから買い物が不便である。空き家・空き店舗が増加し、防犯・環境面の不安がある
- ・交通の便が悪い(特に通勤・通学)、高齢者の移動に配慮が必要となっている
- ・道路環境の整備が不足している(安全面・高齢者・通学路など)
- ・介護施設は不足しており、待機老人が増加している。高齢者の集いの場も少ない
- ・児童館がなく、保育所の整備が必要である。出生率が低く、子どもが減少しており、活気が薄れている
- ・地域のコミュニティが希薄化している。また、転入者が解け込みにくい
- ・防犯灯が少なく、防犯面で不安がある。実践的な防災対策が必要となっている

テーマ②：「こういう市になってほしい」

- ・故郷を誇りに思えて、安心して暮らせるまち
- ・世代間の交流が活発で活気のあるまち
- ・高齢化社会に向けた対策が充実したまち
- ・子育て支援が充実したまち
- ・田舎の田園風景と静かな街並みが残るまち
- ・移住者を含めた人口増加を目指すまち
- ・誰もが住みよいコンパクトなまち
- ・新たなことに挑戦(チャレンジ)するまち
- ・災害に強いまち
- ・人口が少なくとも、小さく輝くプラチナのようなまち
- ・帰って来たいと思えるまち

【第2回 未来カフェ羽生】

(1) 実施方法

参加者を7つの政策分野ごとに、7グループに編成し、それぞれの政策分野ごとのテーマにおいて、「良いところ」「良くなったところ」「誇れるところ」及び「気になっているところ」「問題・課題」などを付箋に記入し、模造紙に貼りながら意見を出し合いました。

一つのテーマについて、グループのメンバーを交替し、3回の討論を実施しました。(一つのテーマについて、より多くの方が討論をしたこととなります)

全ての討論終了後に各グループの代表者による発表を行いました。

(2) 意見概況

テーマ③：「第5次羽生市総合振興計画の7つの政策」については、第5次羽生市総合振興計画の政策分野ごとの討論となりましたが、各分野ともに、要望や課題・問題点といった意見が多く出されています。

そのような中、2つの共通した意見が見られます。ひとつは地域のコミュニティの重要性であり、もうひとつは積極的なPR(情報発信)です。

地域コミュニティは、テーマ1の地域づくり・まちづくりをはじめ、テーマ2の防犯や防災、テーマ3の子育てや高齢者対策などの幅広い分野でその必要性が共通認識されています。

積極的なPR(情報発信)としては、テーマ7の市役所のサービスに加え、テーマ3、テーマ4の小中学校・文化芸術・スポーツ、テーマ5の農業・商工業・観光・働く場において、対外的・対内的問わず、その必要性が求められていると考えられます。

意見やアイデアの中で多かったキーワードは、以下のとおりです。

<開催の様子>



テーマ③：「第5次羽生市総合振興計画の7つの政策」

【テーマ1】「地域づくり・まちづくり活動等」(政策1:市民との協働によるまちづくり)

《コミュニティ》

- ・ボランティア人材が見つからない
- ・世代間交流が少なくなっている

⇒ コミュニティが失われている

《市民参加》

- ・住民参加のイベントは多いが、参加者の制約や時間的制約があり参加できない
- ・市民参加をPRする場所がない
- ・市民参加が増えることにより、コミュニティが活性化する

⇒ 市民参加・住民参加が減少している

《男女共同》

- ・女性委員がいない

《国際交流》

- ・異文化を持つ人に対する交流が少ない
- ・国際化の中で異文化とのコミュニケーションが必要である

⇒ 異文化交流が少ない

【テーマ2】「防災・防犯・交通安全・救急等」(政策2:安全で安心なまちづくり)

《防災》

- ・自主防災訓練や地域ごとの訓練などが行われている
- ・学校等の避難所の備蓄品が現実の災害時に対応が可能か心配である

⇒ 実際の災害に即した防災訓練を実施してほしい

《防犯》

- ・地域ぐるみの防犯活動、防犯パトロールにより認知件数は減少している
- ・発生情報に対する結果のフォローが不足している
- ・防犯灯がLED化で明るくなった一方で、家のないところでは街路灯もなく暗い

《交通安全》

- ・自転車の運転マナーが悪い(特に中高生)。中学生以降では教育的な指導がない

《救急》

- ・救急の出動件数の増加。半数以上が軽症者
- ・救急車不足
- ・救急車の適正利用

⇒ 防犯・防災・交通安全・救急等について、地域のボランティアをはじめ、多くの住民が参加している地域ではコミュニティが活性化し、安全・安心につながっている。市街地では役員の方しか参加しないという状況もあり、安全・安心に疑問である。地域ぐるみの活動が重要である



【テーマ3】「健康・子育て・高齢者・障がい者・医療等」（政策3：健康で希望に満ちたまちづくり）

《医療》

- ・羽生総合病院ができるので良い。一方で町医者が少なくなっている

《子育て》

- ・子ども医療費の窓口払いがなくなって良かった。子ども医療費が無料である
- ・民間の保育所は施設やサービス内容が充実しているが、一方、公立保育所は閉鎖や施設面で不十分なところが見受けられる
- ・子育て情報がインターネットで見られない

《高齢者》

- ・施設のサービスや介護認定等がスムーズと感じる人と出来ていないと感じる人が混在している
- ・民生委員の活動が活発になった
- ・高齢者の居場所づくりが必要である
- ・高齢者施設はあるが、利用者がいない

《障がい者》

- ・サポートができています

《健康》

- ・健康診断がきめ細かくて良い

⇒ 福祉全般のテーマであるが、サービスを受ける人の環境が様々であることから、行政サービスがそれらの様々なニーズに的確に対応し、利用者に分かり易く提供されることが大切

【テーマ4】「小中学校・文化芸術・スポーツ等」（政策4：次代を担う個性豊かなまちづくり）

《教育（幼児・家庭教育、義務教育・高校等）》

- ・あいさつができる元気な子どもが多い
- ・学校への協力体制が出来ている（学校応援団、おやじの会、見守り隊）
- ・自然豊かで、緑が多く、教育環境が良い
- ・幼稚園から大学まであり教育環境が整っており、連携を図ることが可能である
- ・中高生、短大生がボランティアで活躍している
- ・ボランティア以外で高校生や短大生の知識を活かす場があると良い
- ・引っ込み思案の子どももいる
- ・児童数の減少や学力の低下が見られる
- ・学校教育と家庭教育の境界が難しい。学校依存が増加している

《文化芸術》

- ・羽生市内には文化芸術に触れる機会が少ない
- ・文化芸術イベントへの参加者も少ない
- ・文化団体等の運営者の高齢化や参加者の減少

《スポーツ》

- ・トップアスリート育成事業によるトップレベルの競技者等との交流は素晴らしい
- ・マイナースポーツの競技の活用が必要である

- ・スポーツ少年団の減少。様々なスポーツに触れる機会の整備が必要である
- ・公園を活用したスポーツ活動の実施(マイナースポーツやスケートボード等)
- ・外部指導者の招へい
- ・オリンピック出場者の育成

《生涯学習》

- ・公民館活動が活発で、講座が多く開催されている
 - ・公民館が高齢者の生きがいづくりの場として機能している
 - ・100人規模で活動できる施設があると良い
 - ・図書館は業務委託により、対応が良くなった一方、本が少なく駅から遠く不便である
 - ・学校図書は司書も配置されているので、連携ができれば良い
- ⇒ 全ての分野において、その活動を市民に発信していくPRが必要である

【テーマ5】「農業・商工業・観光・働く場等」(政策5:活力に満ちたまちづくり)

《農業》

- ・農地が多く、土地も安い。本格的な農業から家庭菜園まで可能な基盤がある
- ・農業の担い手不足と高齢化、耕作放棄地の増加
- ・新規就農者支援対策の強化、農業講座の実施
- ・消費者ニーズに合った農作物の生産体制の構築(有機農業など)

《商工業》

- ・イオンモール羽生の進出効果により、周辺店舗の増加。買い物や飲食の利便性向上
- ・中心市街地の衰退、活性化対策が急務である
- ・中心市街地を中心に起業家支援の充実化

《観光》

- ・世界キャラクターさみつとによるPR効果が大きい
- ・継続的に人の交流が可能な施策が必要である
- ・既存施設の効果的な活用(キャッセ羽生やスカイスポーツ公園など)

⇒ 農業及び商工業の後継者育成と共に起業家支援を充実させ、雇用の場を創出することが大切である。全てにおいて、外部から人を呼び込むための効果的なPRが必要である

【テーマ6】「住環境(道路・橋・上下水道・交通・ごみ)市街地等」

(政策6:快適で住みやすいまちづくり)

《道路》

- ・国道122号線は4車線化により、沿線の開発も含め人の流入が見られる
- ・舗装の整備が悪い(道路の補修の際には、継ぎ目などに段差ができないようにしてほしい。高齢者などに危険性がある)
- ・通学路は、特に交通量の多いところで危険性が高まる。歩道の整備が必要である

《排水路》

- ・排水路の清掃は地域で実施しているが、用具や堆積物の収集などについては一定の制度的なものが必要である



《公園》

- ・公園内は整備が良くなり、防犯面でも改善が見られる
- ・郊外では人が集まる公園がない
- ・災害時に一時的な避難場所としての公園・空き地が必要である(村君地区)

《ごみ》

- ・ごみの散乱や雑草の処理等の対応について徹底してほしい

《市街地》

- ・郊外の田園風景を維持し景観を守る対策がほしい。
- ・中心市街地(特に羽生駅東口)では、道路が狭く、空き家も増加している。環境・防犯・災害時対応も含め、都市計画の見直しも必要ではないか

【テーマ7】「市役所のサービスについて」(政策7:行政経営の改革)

《広報・広聴》

- ・「広報はにゅう」がA4判、カラーで見やすくなった
- ・やや内容が多すぎる点や、文字が見にくいなど、改善点も見られる

《情報化》

- ・どの手続きが電子化されているのか、またその手続きがよくわからない
- ・セキュリティ面での不安がある
- ・情報化とともに、親切丁寧な対応が必要ではないか

《行政改革》

- ・市役所(公民館職員を含め)の窓口対応が改善した(明るく、礼儀正しく、電話対応も早くなった。市民生活課窓口が業務委託されていることを知らない方が多いが、結果的にサービス向上につながっている)
- ・開庁時間の弾力的な対応ができないか(日曜開庁を知らない人が多く、PR不足)
- ・羽生市は合併せず、コンパクトな行政運営ができるので良かった

《財政》

- ・予算配分はバランス良く配分してほしい
- ・イベントに予算配分するのであれば、費用対効果を考え、効果の上がる施策を検討すべき

《人事》

- ・課長級以上の女性が少ないのではないか
- ・女性目線の行政サービスを提供するためにも、女性管理職の登用が必要ではないか

3. アンケート結果

ご参加いただいた方に対してアンケートを実施しました。結果の概要は次のとおりです。

【第1回 未来カフェ羽生】

平成28年11月26日(土)〔参加者数22名 アンケート回答者20名〕

- ・参加者22名(男性9名・女性13名)のうち、20名(男性8名・女性12名)の方から、アンケートに回答していただきました。
- ・このような市民参加のイベントに初めて参加された方が12名いました。
- ・未来カフェ羽生に参加するに際し期待していたこととしては、「様々な知識と経験を持つ人達と話す機会が得られること」が最も多く、続いて、「まちづくりに関して自分の意見を発信することができること」、「参加を通じて様々な地域の情報を入手し、視野を広げることができること」が多くなりました。一方で、「地域活動への参加のきっかけになること」という回答は少なくなりました。
- ・参加された感想としては、ほとんどの方が、「十分発言できた」、又は「ある程度発言できた」と回答しており、また、「少人数で意見を交わすことができ良かった」との回答を多くいただき、満足度の高い市民参加の取り組みとなったものと考えられます。

【第2回 未来カフェ羽生】

平成28年12月3日(土)〔参加者数22名 アンケート回答者21名〕

- ・参加者22名(男性8名・女性14名)のうち、21名(男性7名・女性11名・未記入3名)の方から、アンケートに回答していただきました。
- ・これまで参加したことのあるまちづくり経験では、「町内会・自治会活動」が最も多く、続いて「NPO・ボランティア活動」となっており、「パブリックコメント」に対して意見を提出している方もいます。
- ・今後も続けたい、又は新しく参加したい市民活動等としても、「町内会・自治会活動」、「NPO・ボランティア活動」が多くなっています。
- ・参加された感想としては、ほとんどの方が「十分発言できた」、又は「ある程度発言できた」と回答しています。また、進行については「少人数で意見を交わすことができ良かった」との回答が多かった一方で、「時間が足りなかった」、「議論が深まらなかった」と回答している方も見られます。
- ・開催希望時期等については、「特にない」との回答が最も多くありましたが、「他の時期が良い」との回答も比較的多くありました。時間帯では「平日の日中が良い」との回答が最も多く、開催時間は「ちょうど良い」との回答が多くなりました。
- ・2日間を通しての感想としては、「まちづくりに関して、みんなが自分の意見を発信することが大切である」や、「様々な知識と経験を持つ人達と知りあえた」との回答が多くなりました。また、このような市民参加の取り組みが行われることで、まちづくりにどんな影響があるかとの問いに対しては、「市民による自治意識が高まる」や「市民・行政の連係が強まる」との回答が多くなりました。
- ・このような市民参加の取り組みに対する今後の参加希望では、「関心があるテーマであれば参加したい」との希望が多く、市民参加の要望が高いと考えられます。

